

# 第88期株主通信

2013.4.1 ▶ 2014.3.31



証券コード：6863

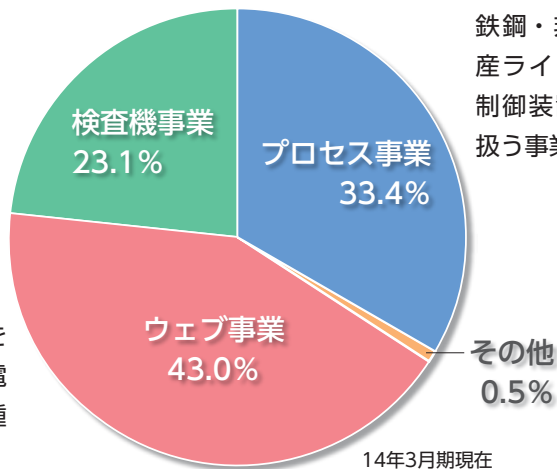
# 制御・検査装置のパイオニア

ニレコは「技術と信頼」をモットーに様々な産業分野で貢献してまいります。

## 売上構成

当社が30年以上にわたり培ってきた画像処理技術をベースに、電子機器材料から農産物までを対象とした品質検査装置を主に取り扱う事業

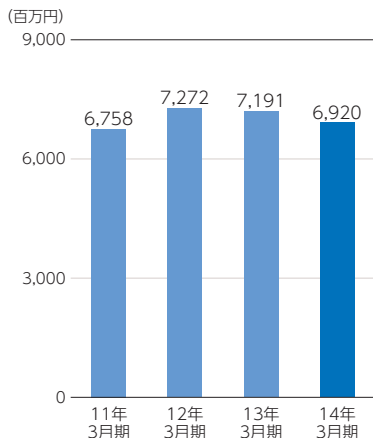
シート状製品の位置制御を取扱い、製紙・印刷から電子機器材料まで広範な業種を対象とした事業



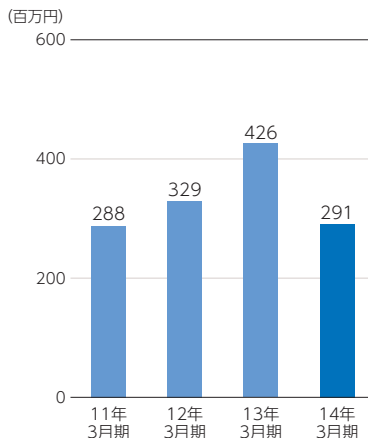
鉄鋼・非鉄金属や化学の生産ラインを主な対象とする制御装置や計測装置を取り扱う事業

## 業績ハイライト

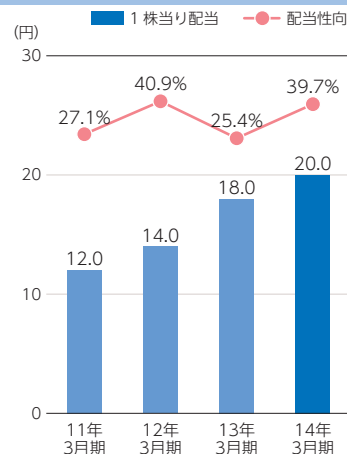
### 売上高



### 営業利益



### 1株当たり配当・配当性向



# 株主の皆様へ



代表取締役社長  
川 路 憲 一

中期3カ年計画の2年目にあたる年度でしたが、誠に遺憾ながら、売上高、利益とも当初立てた目標を達成することはできませんでした。配当金は年間で20円と、3年連続で増配とさせていただきました。

## ● 当期を振り返って

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2014年3月31日をもちまして終了しました第88期の業績結果をご報告申し上げます。

国内経済の本格的な回復に向けた動きが徐々に高まる中、当社グループの主要取引先であります印刷業、紙加工業、電子部材メーカー、鉄鋼業及び化学工業などの設備投資に向けた動きは、一部業種に表れ始めたものの、概して慎重な傾向が続きました。

このような環境の下、当社グループは、高機能フィルムや農業向け製品の製造・販売に注力しながら新たな展開によるニーズの創出に努めた結果、売上高は6,920百万円（前年同期比96.2%）、営業利益は291百万円（前年同期比68.4%）、当期純利益は373百万円（前年同期比71.8%）となりました。

なお、期末配当金につきましては、1株当たり10円とさせていただきます。中間配当金と合わせ、20円となります。

## ● 次期の見通しについて

次期につきましては、消費税率の引き上げや輸入コ

トの上昇などによる景気への影響が懸念されます。従いまして、設備投資需要の本格的な回復についても予断を許さない状況が続くものと考えております。

このような状況において、当社グループは、将来、設備投資需要が本格化する時期を見据えて、主要事業であるフラット・パネル・ディスプレイや二次電池用途の高機能フィルムの制御・検査装置、そして、青果物の選果装置などを高い成長が期待できる分野と捉え、そこに技術力と営業力を結集し、成長に向けた事業基盤の強化を図る一方、鉄鋼や印刷物などの成熟した市場においても、新たな展開によるニーズの創出に努めてまいります。また、全社的なコストダウンへの取り組みにも引き続き注力し、環境変化に左右されない事業基盤の構築を進めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

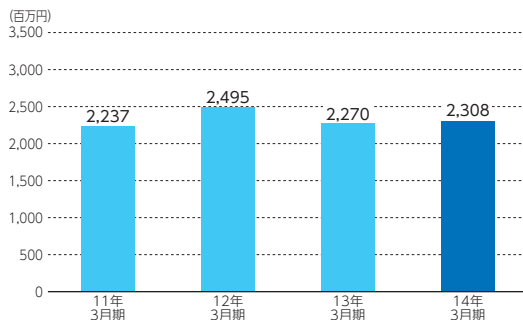
### 2015年3月期連結業績予想

(単位：百万円)

	金額	前期比
売上高	7,700	+11.3%
営業利益	600	+105.6%
経常利益	650	+79.3%
当期純利益	370	△1.0%

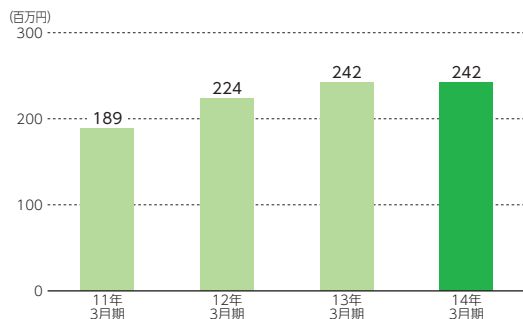
## プロセス事業

## ■ 売上高



1.7%

## ■ セグメント利益



0%

当事業の主要取引先であります国内鉄鋼業界は、将来に向けた戦略的観点から海外設備投資に注力しており、鉄鋼需要の回復に伴い業績が改善する中、国内既存設備の更新需要も始まりました。また、海外鉄鋼業界は、期後半において、一部メーカーで新規設備投資に向けた動きが始まりました。このような状況において、当社グループは、鉄鋼製品の品質向上と生産効率化を支える新製品群を中心に積極的な営業展開を進めるとともに、生産の維持に必要な中小型の設備改修・更新案件、予備品・部品の販売やメンテナンスなどアフター・サービスの受注獲得に注力しました。

その結果、当事業の売上高は2,308百万円（前年同期比+1.7%）、セグメント利益は242百万円（前年同期比0%）となりました。また、受注高は2,344百万円（前年同期比+17.0%）となりました。

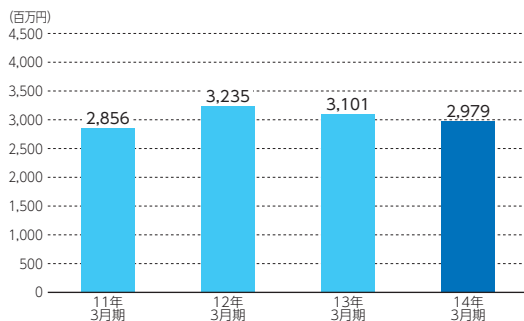
## 次期の展望

当事業の主要取引先である鉄鋼業界は、国内については、引き続き更新を中心とした設備投資が続くものと想定しております。当社グループは、この機を捉え、既存設備の更新や改修のみならず、品質と生産効率の向上に貢献する新製品群を提案することにより顧客の

潜在ニーズを捉え、更なる受注の拡大を図ります。また、海外については、現地販売網及びサービス網を充実させるとともに、設備投資に向けた動きが始めた一部海外メーカーに対して、国内での信頼と実績をアピールし、シェアの拡大を目指します。

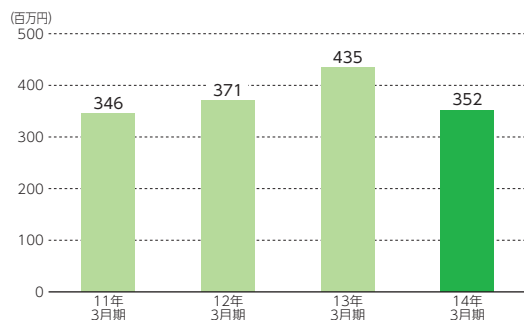
# ウェブ事業

## ■ 売上高



3.9%

## ■ セグメント利益



19.1%

当事業の主要取引先であります高機能フィルム業界は、スマートフォンやタブレット端末の旺盛な需要の下、中小型パネル向けを中心に引き続き好調なものの、新規設備投資に関しては抑制傾向が続きました。また、二次電池市場に関しては、予想外に市場拡大の動きが鈍いため、設備投資に消極的でした。このような状況において、当社グループは、真空環境対応の耳端位置制御装置や張力制御装置といった新製品を投入し、シェアの拡大に注力しましたが、前年同期の売上高をわずかながら下回りました。

もう一方の主要取引先であります印刷業界は、商業印刷市場が縮小する厳しい環境にある中、当社グループは、食品包装資材や特殊印刷需要を対象に印刷品質検査装置や糊付け装置の販売に注力しましたが、前年同期の売上高を下回りました。

その結果、当事業の売上高は2,979百万円（前年同期比△3.9%）、セグメント利益は352百万円（前年同期比△19.1%）となりました。また、受注高は3,019百万円（前年同期比△5.2%）となりました。

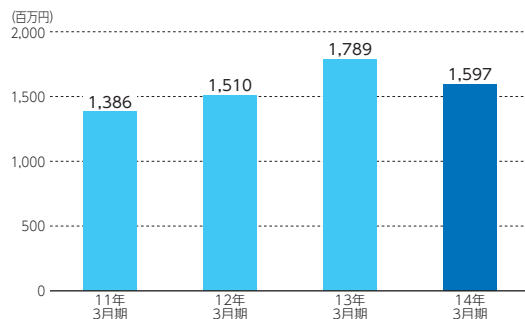
## 次期の展望

当事業の主要取引先である高機能フィルム業界は、スマートフォンやタブレット端末の液晶パネル向けを中心に引き続き需要の伸びが期待されますが、新規設備投資については抑制傾向が続くものと想定しております。このような環境の下、当社グループは、機能の

向上とコストダウンを実現した新製品の投入によりシェアの拡大を目指すとともに、アジア地域を中心に現地生産・現地販売の拡大も進めていきます。また、薬品や化粧品のパッケージ検査向けに開発した製袋検査装置を投入し、新しい市場の開拓を進めていきます。

## 検査機事業

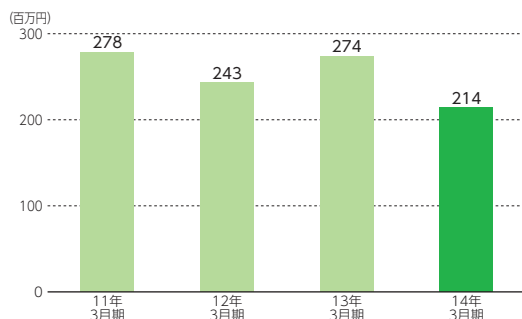
## ■ 売上高



10.8%

当事業の主要製品であります無地検査装置は、品質検査能力を大幅に向上させた新型機を当期後半に投入しましたが、主にスマートフォンやタブレット端末の液晶パネル向け高機能フィルム関連の設備投資に慎重な姿勢が続いた影響により、期待していた大幅な受注拡大には至らず、前年同期の売上高を下回りました。一方、電極シート検査装置は、将来の二次電池市場の本格的な拡大に備え、シェアの維持と品質検査能力向上を目指した新型機の開発に注力しました。

## ■ セグメント利益



21.8%

また、もう一つの主要製品であります選果装置は、国内選果場設備の更新期が続いており、独自技術である生傷・腐敗センサも高く評価されております。また、当期において、新規顧客開拓による海外市場拡大に向けた足掛りを築くことができましたが、国内の農業関連予算が積み上がる中、その執行が想定よりも進まず、前年同期の売上高を下回りました。

その結果、当事業の売上高は1,597百万円（前年同期比△10.8%）、セグメント利益は214百万円（前年同期比△21.8%）となりました。また、受注高は1,334百万円（前年同期比△30.8%）となりました。

## 次期の展望

当事業の主要製品である無地検査装置は、主にスマートフォンやタブレット端末の液晶パネル向け高機能フィルムを対象に、引き続き新型機の拡販に注力します。また、電極シート検査装置は、将来の二次電池市場の拡大に備え、新型機の早期投入によりシェアの

向上に努めます。

もう一つの主要製品であります選果装置は、国内においては、農業関連予算の執行期を確実に捉え、受注を獲得するとともに、海外においては、北米市場の更なる拡大を進めます。

## 本店社屋の一部建て替えについて

現在使用している本店の一部社屋は昭和45年に完成した建物で老朽化が激しく、安全面への配慮から建て替えが急務でした。このような背景から、この5月より一部社屋及び付帯施設の建て替え・新築工事に着工いたしました。新棟へ機能を移設・集約することにより、社員の安全を確保するだけでなく、ワーク・スペースの最適化による事業運営の効率性にもつながるものと考えております。カーテンウォールなど外壁のガラスに低放射ガラスを採用することで遮熱性能を高めているほか、節水・節電などの工夫を取り入れるなど、環境に配慮した建物を目指しております。また、敷地内に守衛室を配置しセキュリティを強化、BCP対策として、非常用発電機の設置や社内備蓄倉庫の整備など付帯施設の充実も予定しております。新社屋棟の竣工は平成26年12月頃、その他付帯施設を含め、全ての竣工は平成27年4月頃を予定しております。

新社屋棟の概要：鉄骨造、3階建（建物延床面積3,055.82㎡）、その他付帯施設



※外観については、若干変更が入る可能性があります。

# 連結財務諸表

## 連結貸借対照表 (要旨)

(単位：百万円)

科目	期別	14年 3月期	13年 3月期
<b>(資産の部)</b>			
流動資産		9,752	9,306
固定資産		2,832	3,191
有形固定資産		1,203	1,228
無形固定資産		123	136
投資その他の資産		1,505	1,826
<b>① 資産合計</b>		<b>12,584</b>	<b>12,497</b>
<b>(負債の部)</b>			
流動負債		999	1,099
固定負債		530	388
<b>② 負債合計</b>		<b>1,529</b>	<b>1,487</b>
<b>(純資産の部)</b>			
株主資本		11,018	10,764
資本金		3,072	3,072
資本剰余金		4,124	4,124
利益剰余金		5,020	4,809
自己株式		△1,198	△1,242
その他の包括利益累計額		△53	150
新株予約権		22	23
少数株主持分		67	71
<b>③ 純資産合計</b>		<b>11,055</b>	<b>11,009</b>
<b>負債純資産合計</b>		<b>12,584</b>	<b>12,497</b>

## Check Point

### ① 資産

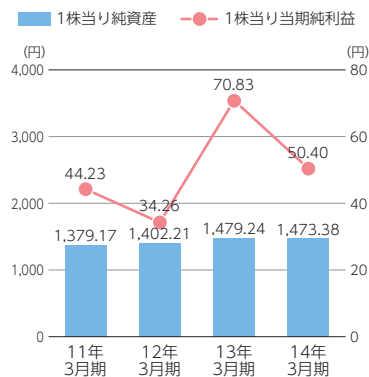
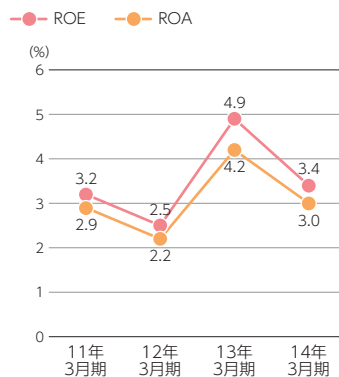
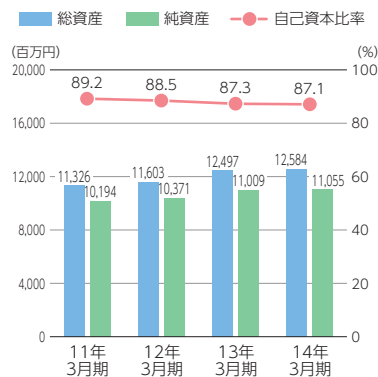
前連結会計年度末に比べて87百万円増加し12,584百万円となりました。これは主に、投資有価証券及び有価証券の売却、たな卸資産の減少、売掛債権の回収を主な理由とした現金及び預金の増加1,194百万円などがあった事によります。

### ② 負債

前連結会計年度末に比べて41百万円増加し1,529百万円となりました。これは主に、退職給付に関する会計基準等の適用に伴う退職給付引当金の減少及び退職給付に係る負債の増加245百万円などがあった事によります。

### ③ 純資産

前連結会計年度末に比べて45百万円増加し11,055百万円となりました。これは主に、退職給付に係る調整累計額△200百万円の発生があったものの、ストックオプションの権利行使や売却による自己株式の減少43百万円、利益剰余金の増加211百万円などがあった事によります。





## 連結損益計算書 (要旨)

(単位：百万円)

科目	期別	14年 3月期	13年 3月期
売上高		6,920	7,191
売上原価		4,715	4,700
売上総利益		2,205	2,491
販売費及び一般管理費		1,913	2,064
営業利益		291	426
営業外収益		82	71
営業外費用		12	12
経常利益		361	485
特別利益		158	14
特別損失		41	15
税金等調整前当期純利益		478	484
法人税、住民税及び事業税		34	52
法人税等調整額		68	△90
少数株主損益調整前当期純利益		375	522
少数株主利益		1	1
当期純利益		373	520

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	期別	14年 3月期	13年 3月期
④ 営業活動によるキャッシュ・フロー		1,093	727
⑤ 投資活動によるキャッシュ・フロー		111	△203
⑥ 財務活動によるキャッシュ・フロー		△185	21
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)		1,069	575
現金及び現金同等物の期首 残高		3,574	2,999
現金及び現金同等物の期末 残高		4,643	3,574

## Check Point

### ④ 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は1,093百万円（前年同期比365百万円の増加）となりました。これは主なフローアウトに投資有価証券売却益158百万円などがあったものの、主なフローインとして税金等調整前当期純利益478百万円、たな卸資産の減少313百万円、売上債権の減少288百万円などがあった事によります。

### ⑤ 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果得られた資金は111百万円（前年同期は203百万円の支出）となりました。これは主に定期預金の預入による支出309百万円、投資有価証券の取得による支出266百万円などがあったものの、投資有価証券の売却による収入523百万円、定期預金の払戻による収入181百万円などがあった事によります。

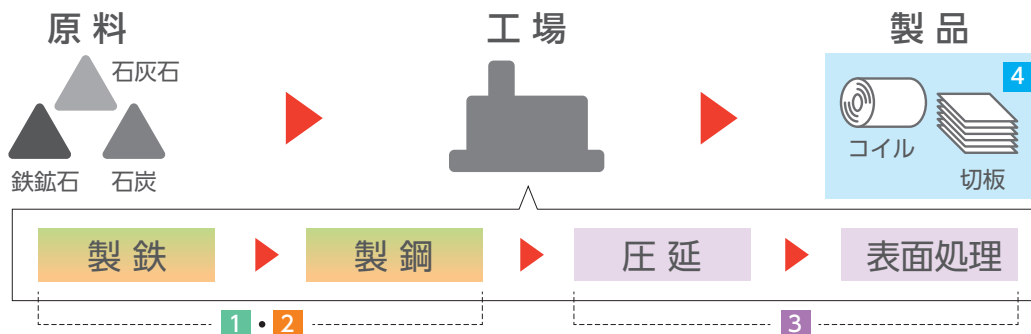
### ⑥ 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は185百万円（前年同期は21百万円の収入）となりました。これは主に配当金の支払額153百万円があった事によります。

# 事業のご紹介 ～プロセス事業～

プロセス事業は主に鉄鋼・非鉄金属業などの生産ラインを対象とした製品を取り扱っております。元は製鋼プロセスの温度や圧力といった運転条件の調節を油圧の力で制御するプロセス制御装置から端を発しており、設立当初からの中核事業として発展してまいりました。今日では、鉄鋼製品の多岐にわたる生産工程で、その品質と効率を支えるために、当社の様々な製品が活躍しております。また、製品の提供だけでなく、提供した製品の保守点検や、部品・消耗品の交換といったアフター・フォローも鉄鋼製品の生産を支える重要な役割です。絶え間ない生産活動を支え続けてきた長年の実績による信頼性と充実したサービス体制が当事業の強みになっています。

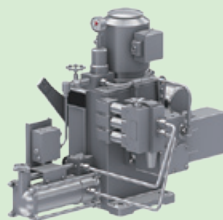
## 鉄鋼製品生産プロセスラインとニレコの製品



### [ 代表的製品のご紹介 ]

#### 1 電油アクチュエータ

鉄鉱石を溶かして精製する『製鉄』や『製鋼』の工程で、油圧制御による弁の開閉で圧力・流量・温度などの調整を行う装置。



#### 2 渦流式溶鋼レベル計

溶けた鋼を型に流し込む『連続铸造』の工程で、湯面（＝溶鋼の表面）の位置を計測する装置。



#### 3 耳端位置制御装置

鋼板を成形するための『圧延』や『表面処理』の工程で製品の蛇行を制御する装置。通称CPC（シーピーシー）、EPC（イーピーシー）と呼んでおります。



#### 4 自動識別印字装置

製品そのものに情報を印字する装置。製品の形状や工程などにより、塗料吹付けやレーザー照射など異なる印字タイプ、ロボットやハンディなど異なる印字や温度環境に対応したタイプなど、豊富なラインナップを取り揃えています。

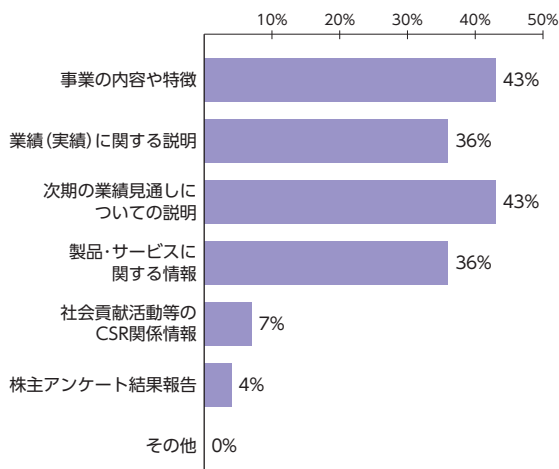


## 株主アンケート結果について

前回お送りしました「第88期中間株主通信」にてお願いしましたアンケートへご協力いただき、誠にありがとうございます。

ここで、そのアンケート結果の一部について、ご報告申し上げます。

**問** 今後、充実を希望する情報をお選びください（3つまで）。



ご覧のとおり、「事業の内容や特徴」、「次期の業績見通しについての説明」が同率で最も多く、次いで、「業績(実績)に関する説明」、「製品・サービスに関する情報」となっております。実績や見通しといった業績に係る内容のみならず、より基本的な事業内容について、ご理解を深めたいということの表れだと捉えております。また、字を大きく、読みやすくしてほしいとのご意見も頂戴しております。これらの点を踏まえ、今回の株主通信は、「事業のご紹介」と題し、プロセス事業を紹介させていただきました。今後も順次、各事業を紹介していこうと考えております。また、ユニバーサルデザインフォントを採用し、読みやすさを意識した作りになりました。

これからも皆様のお声をとりいれることで、よりよい株主通信を目指してまいります。

### 株主の皆さまの声をお聞かせください

当社では、株主の皆さまの声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

 <http://www.e-kabunushi.com>  
アクセスコード 6863



空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

- アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から  
抽選で薄謝(図書カード500円)  
を差しさせていただきます



※本アンケートは、株式会社 a2media(イー・ツー・メディア)の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。  
(株式会社 a2mediaについての詳細<http://www.a2media.co.jp>)  
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

- アンケートのお問い合わせ TEL:03-5777-3900(平日 10:00~17:30)  
「e-株主リサーチ事務局」 MAIL:info@e-kabunushi.com

# 株式の状況

## 株式の状況 (平成26年3月31日現在)

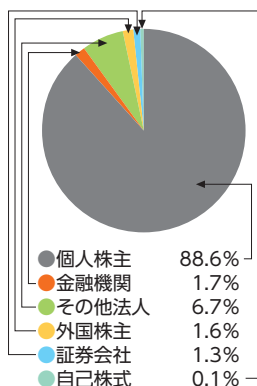
発行可能株式数： 39,400,000株  
 発行済株式の総数： 9,205,249株  
 株主数： 826名  
 大株主：

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
みずほ信託銀行株式会社退職給付信託新日鐵住金退職金口再信託受託者 資産管理サービス信託銀行株式会社	790	10.3
ニレコ取引先持株会	521	6.8
極東貿易株式会社	469	6.1
NOMURA PB NOMINEES LIMITED OMNIBUS-MARGIN (CASH PB)	399	5.2
株式会社東京都民銀行	364	4.8
株式会社みずほ銀行	364	4.8
CGML PB CLIENT ACCOUNT/COLLATERAL	309	4.0
株式会社博進企画印刷	270	3.5
浅井美博	238	3.1
住友金属鉱山株式会社	231	3.0

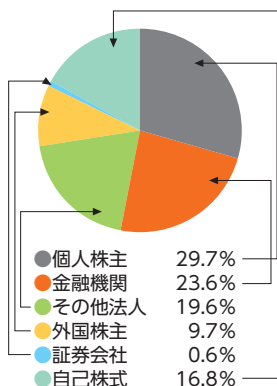
(注) 上表の持株比率は自己株式(1,543,871株)を控除して計算しております。  
 なお、平成26年5月16日開催の取締役会決議により、自己株式282,300株取得したため、平成26年6月11日現在自己株式を1,826,171株保有しております。

## 所有者別株式分布状況

### ●株主数



### ●保有株式数



見やすいユニバーサルデザイン  
 フォントを採用しています。



# 会社情報

## 会社の概要 (平成26年3月31日現在)

商号： **株式会社ニレコ**  
 英文商号： **NIRECO CORPORATION**  
 本店所在地： 東京都八王子市石川町2951番地4  
 設立： 昭和25年11月  
 資本金： 3,072百万円  
 従業員数： 262名

## 役員 (平成26年6月26日現在)

会社における地位	氏名	担当又は主な職業
代表取締役社長兼執行役員	川路 憲一	CEO
常務取締役兼執行役員	長塚 寛	管理部門長兼生産管理部門長
取締役兼執行役員	河西 辰雄	ウェア事業部長兼ニレコ股份有限公司董事長
同	久保田 寿治	プロセス事業部長
※ 取締役	裕 光司	
常勤監査役	田邊 寛一郎	
※ 監査役	林 光彦	
※ 同	古 君修	

執行役員  
 藤原 利之 ミヨタ精密株式会社代表取締役社長兼ニレコ自動制御機器(上海)有限公司董事長  
 小林 正明 検査機事業部長  
 ※会社法に定める社外取締役および社外監査役です。

# 株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会  
 開催時期 6月下旬

定時株主総会議決権  
 行使株主確定日 3月31日

期末配当金受領  
 株主確定日 3月31日

中間配当金受領  
 株主確定日 9月30日

法定公告は次のURLに掲載しております。

<http://www.nireco.jp/ir/index.html>

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社

特別口座の  
 口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

○同事務取扱場所

〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号  
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

○郵便物送付及び電話照会先

〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号  
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
 電話 0120-232-711 (フリーダイヤル)